

YMCA News

7



盛岡YMCAとの協働の広がり感謝



盛岡YMCAからの「新型コロナウイルス3つの顔を知ろう!〜負のスパイラルを断ち切るために〜」を冊子にしたいとの提案は大変ありがたいものでした。JRC加盟校へメール等でデータのダウンロードを勧めていましたが活用へ結びついていませんでした。ところが、実際に出来上がった冊子を手に取った多くの先生方は良質な装丁も相まって、3つの感染症について正しい理解と対応を子どもたちにしっかり伝える大切さを再認識と言います。冊子のもつ魅力だと強く感じました。YMCA News 6月号には、この冊子にYMCA盛岡の趣意書を1枚ずつ差し込む学童クラブの子どもたちの写真が載っていました。改めて多くの人のボランティアでこの冊子が盛岡や宮古の小中学校への配付へ結びついたと気づかされました。さらに増刷して下さる計画をお聞きました。今度は差し込み作業を盛岡市内の加盟校のJRC委員が担います。各校JRC委員会は全校に作業の手伝いを呼びかけるそうです。奉仕活動の輪が広がっていると感じうれしく思いました。

私個人の話になりますが、盛岡YMCAとの繋がりは、今回で2回目になります。前回、東日本大震災津波発災当時に、宮古ボランティアセンターにたくさんお世話になりました。まだ、道路に廃車や漁船があり、瓦礫に埋め尽くされていた3月18日にボランティアセンターが立ち上がったと聞きます。私は宮古小学校で副校長をしていました。600人を超える学区の住民が避難していました。水・電気・食料・物資・燃料・医療、すべてが不足する中避難所として衛生・安全と秩序を保つことは大変なことでした。

そんな折、センター長の池田勝一氏が、学校にやってきて「何か手伝う

ことおまへんか?」と大阪弁で話しかけてきました。明るくおらかな性格だけではなく、相手のニーズをしっかりと把握し、根気強く対応していく姿勢で、いつも周りに人垣ができていました。私も頼りにして、お願いに末広町の教会へ出向いたことを覚えています。被災された方のニーズは日々変化しますが、一つ一つ丁寧に対応していました。被災者に心を寄せ、エネルギーで前向きに行動するボランティアセンターのスタッフを尊敬しておりました。学校が再開してから池田氏を先頭に登下校の見守り活動を欠かさず続けてくれました。もはや宮古小学校にはなくてはならない存在になりました。

2011年が終わりに近づいていた時に、突然池田氏から1週間学校で研修させてほしいと申し入れがありました。理由を聞くと、大阪堺市で民間出身校長として採用されることが決定したので、学校の仕組みを知りたいとのことでした。その時の態度が今までと違いまるで借りてきた猫のようだったので、くすくす笑ってしまいました。誠実な対応、ビジョンをもち実行する計画性、人間調整力の高さ、こういう人が民間校長になるのだと納得できる人柄でした。それでも、一週間の研修は事前知識を身に付けるいい機会だったようで、多くの驚きがあったようです。

もう、10年近くになるのですが、宮古ボランティアセンター、そして今回の取り組みも含め盛岡YMCAへ深く感謝を申し上げます。

日本赤十字社岩手県支部

組織振興課 嘱託(青少年赤十字担当) 川上 良治

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

元気をなくさないプロジェクト第二段 ～ マスクコンテスト ～

3 すべての人に
健康と福祉を



作文コンクールに引き続き行われたマスクコンテスト!新型コロナウイルス感染症拡大で、思う存分外で遊べない、思う存分体を動かせない、そうした様々なストレスを抱えている社会で、こんな時だからこそ、元気をなくさないで、前向きに、今できることを探していこうと盛岡YMCAの「元気をなくさないプロジェクト」を始めました。たくさんの素敵なマスクのご応募、ありがとうございました!これから優勝者、応募されたマスクを紹介していきたいと思います。

【優勝者】高橋 真衣・唯羽さん



☆優勝者紹介

普段は野外活動クラブに参加をしています。いつも活動に来ると、リーダーと大はしゃぎ!そんないつも明るい真衣ちゃんと唯羽ちゃんが二人で素敵なマスクを作りました。少し耳がお邪魔みたいです...

☆もりおかワイズメンズクラブ長岡さんからのコメント

キティちゃんみたいだね。姉妹でみんなに見せに行こう。マスク2枚で心はスリーアップ

【応募者紹介】

①マスク写真 ②枠内：もりおかワイズメンズ長岡さんからのコメント



親子でお揃い、気分は「あげあげ」ですね。こんなマスクなら、自粛生活も悪くないですね。



お見事「ピカチュウマスク」オリジナルで友達に自慢したくなるよね。お母さん素晴らしい、子どもも誇らしげ。いいです。



マスクの出来もいいですが、笑った目がミッキーマウスみたいで気に入りました。



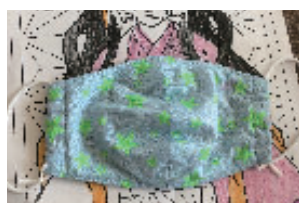
君が縫ったんだね、すごいぞ。感動しました。1年生に針を教えたお母さんに座布団10枚!



そうだ、くじけないでみんなと一緒に。
頑張るぞ〜、お〜



せっかく描いたマスク、大事に使おうね。



アップで確認すると、とてもよく出来たマスクだとわかりました。たぶん息苦しくなく、快適なんだ、と思いました。



キャラクターが大集合している生地で作ったのかな?生地选定におおいに悩んだことでしょう「お母さんありがとう」だね。



クロアチアに行ったら絶対人気者さ。相当な高値で「譲ってください」ってお願いされそうです。



拡大してみたら、ツムツムの画面に似ているような気がします。マスクもいいけどマスクつけた写真もかわいいです。



プログラム再開 ～子どもたちの様子～

～土淵・篠木サッカースクール～

土淵・篠木サッカースクールはこれまで月曜日に開講となっていた土淵サッカースクールと、金曜日に開講となっていた篠木サッカースクールの合同スクールとなっています。会場の関係で合同での開催となりました。土淵スクールの会場はこれまでと同じですが、人数がこれまでの約3倍となり、篠木スクールは会場が変更となったことで、土淵も篠木も全員が緊張した面持ちで第1回の開講を迎えました。

これまで4回の開講をして、最初は手洗い・うがいと消毒に時間を取られ、長い時間サッカーすることができませんでしたが、最近ではメンバー同士でアルコール消毒を手にかけて、早くサッカーをするために手伝ってくれています。準備や片付けに関しても、お互いにコミュニケーションをとることが難しかったため、様子を見て人任せになってしまう場面もあったのですが、最近では試合前に片付けをしながら手の空いている人は会場の石を拾い、環境を整えてくれています。

そのような中で段々と違うスクール・違う小学校のメンバーと打ち解けてきています。たくさんの仲間たちといっしょの中で、楽しくサッカーをしていくため、一人ではなく、みんなでする。準備や片付けもみんなで協力してやる。それが誰か一人からでも伝染し、全体へ広がり、元気で楽しいサッカースクールになっていけばいいと願っています。予定では、Ⅱ期からは別開催に戻る予定です。これから残されたⅠ期の合同スクールでどのようなことが起こるのか楽しみです！

土淵・篠木サッカースクール担当：向平悟



～高松サッカー～

6月より今年度の盛岡YMCAサッカースクールが開講し、高松サッカースクールは、15名のメンバーと、新しい仲間2名が加わっての総勢17名でのスタートとなりました。久しぶりの顔合わせと新たな仲間との出会いということもあってか、私たちリーダーも含め、照れくさいような、何とも言えない妙な緊張感の中、スクールが始まりました。ですが、体操をやり、練習メニューをやり、試合をやり、とスクールが進んでいく中で徐々に各メンバーの元気があふれ出てきて、いつの間にか、その緊張感はどこかへ消えていました。

あふれんばかりの元気があるとはいえ、全体的に体を動かす機会もそれほどなかったようで、しばらく練習していると「疲れた～」の声がちらほら聞こえてくることもあります。今後もサッカースクールを通して、定期的に体を沢山動かし、体力の復活、そしてその向上につなげていけたらと思っています。

そんな彼らも、サッカーの試合となると、顔つきが変わり、元気一杯ながらも真剣に楽しむ姿勢が見られます。試合中ゴールを決めても、ハイタッチができない(感染症対策のため)もどかしさに、最初は戸惑いもありましたが、徐々に違った形で喜びを表現し、チームメイトと分かち合おうとする場面も見られるようになりました。また、片付けの際には、他の子に一步届かずゴールコーンの片づけが出来ず、本気で悔しがる子もあり、そう感じる事ができる気持ちは、素直にすごいなと感じました。

以前の様に、積極的に直接触れ合うことはかえりませんが、同じ場所、それぞれが互いを感じ合い、楽しく、元気に、本気で過ごせるスクールになっていけるよう、彼らと共に過ごせる時間をこれからも大切にしていきたいと思っています。

高松サッカースクール担当：小川嘉文



～水曜水泳～

6月10日から、今年度の水曜水泳教室が始まりました。久しぶりの水泳教室だということや、会場が今までと変わったことで、子どもたちの様子も色々なものでした。やっと水泳ができる嬉しさを感じている子や、これから行くプールがどんなところか気になっている子、水泳教室での友だちとの久しぶりの再会に喜んでいる子もいました。水泳教室再開の初日、プールへ向かう車の中では女子たちのおしゃべりで盛り上がり、少し長く感じてしまうような移動の時間も楽しんでいる様子でした。会場に到着し着替えを済ませると、これから入るプールを見て「深いね...」と不安そうな声を漏らす子も。しかし、いざ水の中に入ってみると久しぶりのプールの感覚に興奮したのか、笑顔が見られるようになりました。現在利用しているプールは水深が深いので、アームヘルパー等をつけてプールに入っているのですが、浮く感覚が面白いとはしゃいでいる子もいました。

レッスンは始めると、私の担当している初級・中級クラスの子どもたちは、常に笑いが絶えず、楽しんで練習に取り組んでいる様子です。しかし、より良く泳ぐためにはどうすれば良いか考え実践する姿も見られ、水泳が好きでもっと上手になりたいという子どもたちの思いが伝わってきます。その思いに応えられるよう、水泳スタッフとして子どもたちと関わることができればと思います。

開講の延期により6月からスタートした水泳教室でしたが、こうしてやる気と笑顔に溢れた子どもたちの姿を見ることができて嬉しいです。これから水泳教室を通して、泳ぐ楽しさを感じてもらいとともに、泳力の向上に向けて頑張っていってほしいです。元気いっぱい賑やかな子どもたちに負けず、私も頑張っていきたいと思っています。

前潟センター職員：石川栞(ましゅまろ)



～体育教室～

6月から久しぶりの体育教室。子ども達は、始めの挨拶をする前から、遊ぼう！遊ぼう！と声をかけ合い、仲間と楽しく走り回って遊んでいました。

体育教室が始まってからも、これまで活動ができなかった反動からか、とても賑やか。体操から大きな声で取り組んでいました。ある子はこれまでできなかった3点倒立が7秒もできるように...。活動がなく、子ども達は倒立の仕方、跳び箱の仕方等、忘れてしまっているのではないかと思っていた私は、とても驚きました。体はやはり覚えているようで、以前苦戦したクロスステップも一発でできるようになっており、成長を感じることができました。お互いに、応援したり、されたり、仲間と一緒に楽しく活動を行うことができ、とても嬉しく思います。

しかし、そんな子ども達ですが、とてもシャイな一面も。6月からの再開とともに、体験の子が活動に参加をしています。その際、自己紹介をするのですが、さっきまでの元気の良さはどこへいったのか...。もごもごと、とても小さな声で自分の名前を囁き、照れている様子でした。こんなに照れている姿はこれまでなかったと思い、久しぶりの活動で少し緊張していた部分もあったのだらうと感じます。

今後も、楽しく、元気に活動を行っていきたいと思っていますが、まだまだ久しぶりの活動に浮足立っている子ども達。やるべき時と楽しむときのメリハリをしっかりと意識しながら、楽しく活動を行っていきたいと思っています。

体育教室担当：武田悠





「ドア」

先日、NHKのテレビ番組で報道キャスターとして活躍している長野智子さんがご自身の新人時代のことを語っておられた。報道分野を志望してフジテレビに入職したのだが、配属されたのは「オレたちひょうきん族」というお笑い番組。ビートたけしと明石家さんまを筆頭に様々な芸人が繰り広げるナンセンスなコントやパロディ精神に富んだコメディは、80年代のテレビ界を席巻していた。

一流の芸人さんたちの前で、アナウンサーという職種を超えたミッションを与えられた長野さんは戸惑うばかり。とにかく全体の流れをこわさないようにとそればかりに気を配って仕事をしている内に行き詰まってしまった。

そんな状況を見かねて、当時のプロデューサー横沢彪さんは、こんな言葉を彼女にかけたのだ。「俺は、長野に目の前にある壁を乗り越えることを期待していないから。そのかわり君には、壁の前で諦めないでウロウロしてないさ。その内、壁の中から扉が出てくるから。そうしたら、その扉を開けて壁の向こうに行きなさい。」この言葉に救われて長野さんは、もう一度チャレンジしてみようという気持ちになったと言う。

生きてると、どうしても無い時が誰にでもある。「もはや、これまで!!」と感じる時もあるかも知れないが、そこで逃げ出さず、あきらめないでウロウロしていれば、いつか壁を越えるドアが出現して来る。そんなドアは、いつだって、どこにだって、誰にだって開かれています!!

「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。だれでも求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」

(新約聖書 マタイによる福音書 7章7～8節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

●維持会員

廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、淺沼誠久、花田瞳、山崎詩織、林間つきみ野教会、照井夏輝、光永尚生、金ヶ澤亮、齊藤優太、魚住恵、accommon、川坂保広、ガイアリンク(株)、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、魚住英昭、清水治彦、若井淳、尾形裕一郎、高瀬稔彦、森山日菜乃、森山幹大、大塚英彦、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵

●寄附金

花田瞳、山崎詩織、光永尚生、瀬川利恵、川坂保広、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、高瀬稔彦

(2020年6月30日現在) 敬称略

【リーダーチャンネル】

盛岡 YMCA のリーダー達が発信するチャンネルです。是非ご覧ください！



Facebook



Twitter



Instagram

『あさえとちいさいもうと』

筒井頼子：さく

林 明子：え

今回は、私が小さい頃に読んで印象に残っている、『あさえとちいさいもうと』という絵本を紹介します。ある日あさえが玄関前で遊んでいると、おかあさんが「銀行に行ってくるわ。すぐ帰ってくるから待っていてね。」と出かけていき、妹のあやちゃんは寝たばかりと言って家に置いていきました。



お母さんが出かけた後あやちゃんが起き、あさえはあやちゃんと玄関前で遊んでいたのですが、気づいたらあやちゃんが見当たりませんでした。あさえは一生懸命あやちゃんを探しました。いろんなところを探し、公園に着くと、あやちゃんは砂場で遊んでいました。

あさえは物も言わずにあやちゃんに駆け寄ると、あやちゃんにはこっと笑って手をあげました。というお話です。

あさえがあやちゃんを探しているとき、自転車のブレーキの音、子供の泣き声が聞こえて、あやちゃん無事に見つかって!無事でいて!と、とてもドキドキハラハラします。この気持ちは自分がリーダーになった今、痛いほどわかり、自分自身の成長も感じました。最後のシーンでぎゅっと優しくあさえがあやちゃんを抱きしめるのですが、この描写から、あやちゃんが見つかってほっとしたあさえの気持ち、あやちゃんを大事に思うあさえの気持ち、あさえの優しさが伝わってきて、感動しました。

私には姉がいるのですが、この絵本を初めて読んだとき、自分の姉もこういう風に想ってくれているのかな、と小さいながらに思い、姉の見え方が少し変わったのを覚えています。

『あさえとちいさいもうと』は、読んでいていろんな感情があふれ、最後は幸せな気持ちになる絵本です。年齢によって感じ方が変わってくると思うので、いろんな人に読んでみてほしいです。

岩手大学3年 佐藤亜美(はっち)

表紙の写真から



学生のボランティア活動の活動自粛も解除されつつあります。

この日は、リーダーたちは久しぶりに顔を合わせ、初夏の日差しの中ワイズメンズクラブの加藤さんの畑で秘伝豆の定植のお手伝い。

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡 YMCA」 で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>